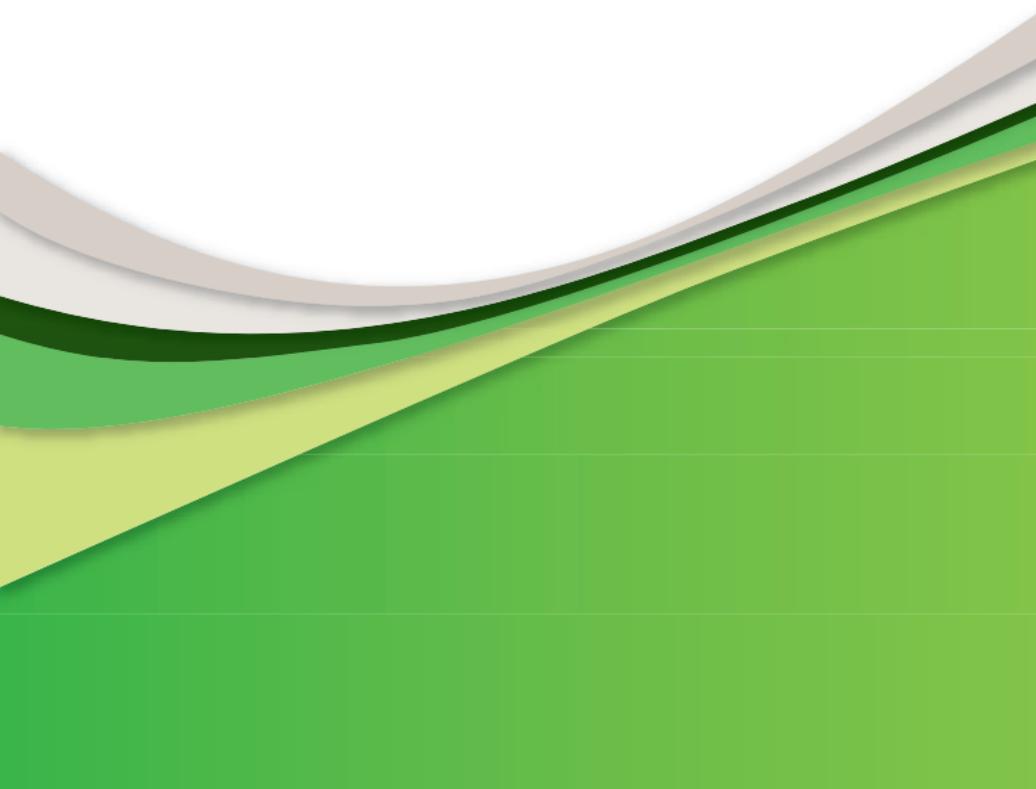


BUSINESS REPORT

第13期 株主通信

2009年4月1日 ▶▶▶ 2010年3月31日



顧客との真のパートナーシップを強化し、 トータルソリューションを提供 しつづけます。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、1997年創設以来、液晶ディスプレイ（以下、LCD）およびプラズマディスプレイ（以下、PDP）の生産ラインにおける検査、修正、観察および測定機器（以下検査関連機器）の開発に経営資源を投入し、顧客のニーズに応える先進的な製品をいち早く提案・提供してまいりました。今日では検査関連機器のフルラインナップ化および幅広いサービス提供を実現し、顧客のニーズに素早く対応する体制を確立しております。その結果、国内はもとより韓国、台湾のほぼ全てのLCDおよびPDPパネルメーカーに製品を納入しております。また、近年は中国市場で以前の納入実績が評価され、大口案件の受注を継続的に頂いております。

第13期においては、顧客の設備投資が厳しい年でしたが、検査関連機器事業で7,000百万円以上の売上高となりました。今後の展開ですが、中国を重要地域とし、中国での生産、販売、サービス体制のさらなる強化を図ってまいります。

新たな事業の柱とすべく、数年間にわたり開発に注力してきた露光機ですが、液晶パネルの画像品質向上、エコロジー対応およびコスト低減に優位性がある新技術パネルのセル工程の露光機として日本で採用されております。第13期においては、当初8,000百万円の売上高を見込んでおりましたが、受注を順調に消化した結果、売上高は9,514百万円となりました。最近は海外市場での引き合いも活発化しており、積極的な受注活動を展開しております。また、同時進行で開発を進めてまいりました他工程の露光機も、問題解決提案および評価段階を経て、量産機としての採用

に向けて受注活動を推進してまいります。

第13通期の売上高は装置納入の末期へのずれ込みがあり上方修正後の予想を下回り17,826百万円となりましたが、営業利益は2,273百万円と上方修正後の見通しを上回りました。

また、既に保有している要素技術の1つであるレーザー技術を太陽電池製造装置に応用できるとし、新事業と位置づけ、マーケティング活動を行っております。今後はこのアプリケーションを含め、自社開発した独自技術を核に新事業領域、新アプリケーションへのビジネス機会を追求してゆく所存です。これらの製品の要素技術は、会社創設以来より一貫して社内に投資を行い開発を行ってきたもので、開発した独自技術については、知的財産の観点より積極的に特許出願を行っております。

さらに、東京証券取引所1部への指定替えを視野に入れ、内部管理体制の強化を行っていく所存です。

なお、配当につきましては、現下、厳しい事業環境ではありますが、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の1つであるという考えに基づき、1株当たり2,500円の特別配当を実施いたしました。

私たちブイ・テクノロジーグループは、株主の皆様のご期待にお応えすべく不断の企業価値向上に取り組んでまいります。今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。



代表取締役社長 杉本 重人

バイ・テクノロジーの露光機 (AEGIS; Alignment method for Exposure system Guided by Image Sensor, イージス) についてご紹介します。

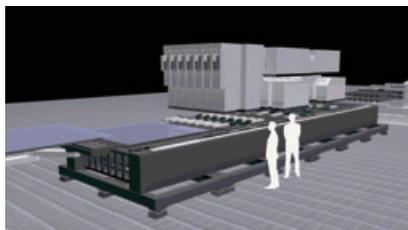
液晶テレビ生産に必要な不可欠な装置

皆様のご家庭や、家電量販店で販売されている液晶テレビの映像は点の集まりから成っています。点は赤、緑、青などの単色（サブピクセル）から成っておりサブピクセルの組み合わせで様々な色の映像を作り出します。37インチフルハイビジョンテレビの場合、各サブピクセルのサイズは0.2mm以下、数はテレビ1台あたりおよそ60-160万個になります。

これらのサブピクセルの色を規則正しく並べて作ったり、各サブピクセルを明るくしたり、暗く（黒く）したりするスイッチを作るなどパターンを成形する際に露光機は必要不可欠な装置です。

パターンを形成する原理はカメラ（デジタルカメラではなく、いわゆるスチールカメラ）の写真の現象とよく似ています。パターンが描かれているフォトマスク（ネガフィルムに相当）の上から光を照射し、テレビのパネルにパターンを焼き付けて現象します。

バイ・テクノロジーの露光機（AEGIS）はパターンがズ

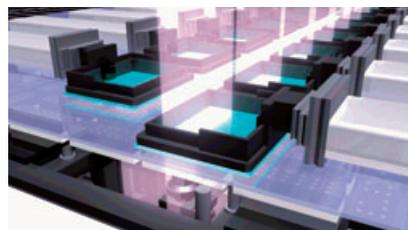


AEGISイメージ図

れたりしにくい技術やフォトマスクにごみがついてもパターンを正しく作る（欠陥になりにくい）技術など自社開発した他社にはない技術が製品に応用されています。またこれらの技術は周辺技術を含め特許申請を行っており、AEGIS関連の特許申請数は70件以上（2010年5月時点）になります。

今日テレビの生産性向上のためガラス基板のサイズが大きくなり、それに伴い一般的にはフォトマスクも大きくなります（第10世代（およそ3m角のガラス基板）用で2000mmX1200mm程度）。それに伴いフォトマスクも高額になります。一方テレビデザインの変更（4：3から16：9など画面サイズの変更、HDからフルHDなど解像度の変更、3Dテレビなどアプリケーションの変更など）をするたびにフォトマスクを新調する必要があります。AEGISのフォトマスクはおよそ400mm角のサイズのものを使用しそのコストは大きなフォトマスクに比べて抑えることができますので、パネル生産においてパネルのデザインの変更があるたびに発生するフォトマスクのコストを大幅に低減することが可能です。

第13期におきましては、コスト低減、省エネかつ高品質なテレビを生産するための重要な工程の露光機としてご採用いただきました。足元では引き続き国内外の顧客より引き合いを頂いております。今後とも受注活動に注力してまいります。

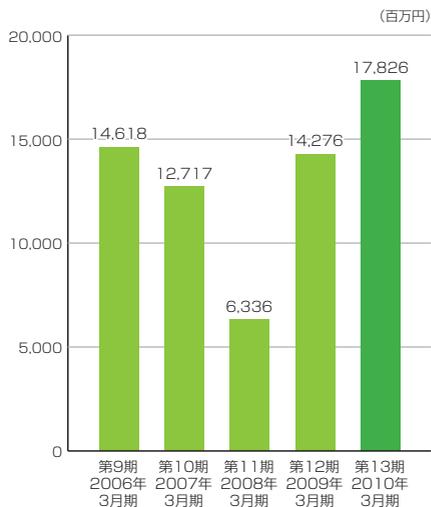


小型フォトマスク+マルチヘッド

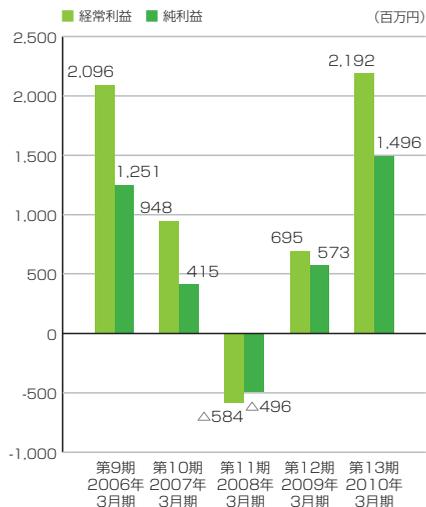
Financial Report

● 財務ハイライト (連結)

● 売上高



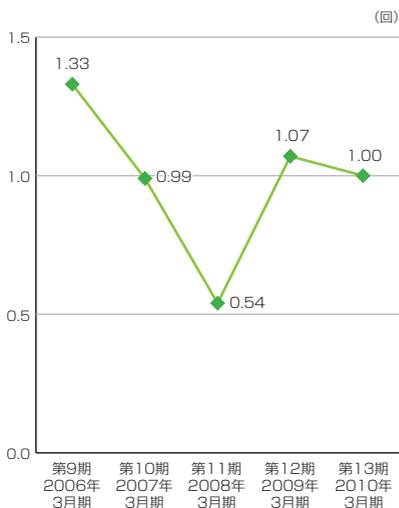
● 経常利益 / 純利益



● 経常利益率



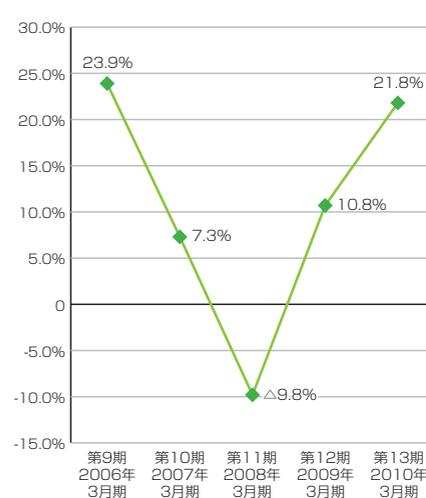
● 総資本回転率



● 1株当たり純利益 / 1株当たり株主資本



● ROE



Financial Statements

●財務諸表

●連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	前期 (2009年3月31日現在)	当期 (2010年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	14,849	19,319
固定資産	700	659
有形固定資産	336	301
無形固定資産	167	136
投資その他の資産	195	221
資産合計	15,549	19,978
(負債の部)		
流動負債	10,242	13,002
固定負債	38	49
負債合計	10,281	13,051
(純資産の部)		
株主資本	5,435	6,997
資本金	2,219	2,322
資本剰余金	1,875	1,978
利益剰余金	1,440	2,822
自己株式	△100	△125
評価・換算差額等	△167	△101
新株予約権	—	30
純資産合計	5,268	6,926
負債純資産合計	15,549	19,978

●連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	前期 (自 2008年4月 1 日 至 2009年3月31日)	当期 (自 2009年4月 1 日 至 2010年3月31日)
売上高	14,276	17,826
売上原価	11,348	12,801
売上総利益	2,928	5,024
販売費及び一般管理費	2,110	2,750
営業利益	817	2,273
営業外収益	21	53
営業外費用	143	133
経常利益	695	2,192
特別利益	98	49
特別損失	28	33
税金等調整前当期純利益	764	2,208
法人税、住民税及び事業税	143	795
法人税等調整額	47	△83
当期純利益	573	1,496

●連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

	前期 (自 2008年4月 1 日 至 2009年3月31日)	当期 (自 2009年4月 1 日 至 2010年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	△1,492	2,010
投資活動による キャッシュ・フロー	△180	△6
財務活動による キャッシュ・フロー	1,636	△1,634
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△27	9
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	△63	378
現金及び現金同等物の 期首残高	473	409
現金及び現金同等物の 期末残高	409	788

●連結株主資本等変動計算書（2009年4月1日から2010年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株 主 資 本				株主資本 合計	評 価 ・ 換 算 差 額 等				新株予約権	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		そ の 他 有価証券	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整額	評価・換算 差額等合計		
2009年3月31日 残高	2,219	1,875	1,440	△100	5,435	△2	—	△164	△167	—	5,268
連結会計年度中の変動額											
新株の発行	102	102			205						205
剰余金の配当			△115		△115						△115
当期純利益			1,496		1,496						1,496
自己株式の取得				△25	△25						△25
自己株式の処分											
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）						1	1	62	65	30	96
連結会計年度中の変動額合計	102	102	1,381	△25	1,562	1	1	62	65	30	1,658
2010年3月31日 残高	2,322	1,978	2,822	△125	6,997	△1	1	△102	△101	30	6,926

●2011年3月期（第14期）の業績予想

（単位：百万円）

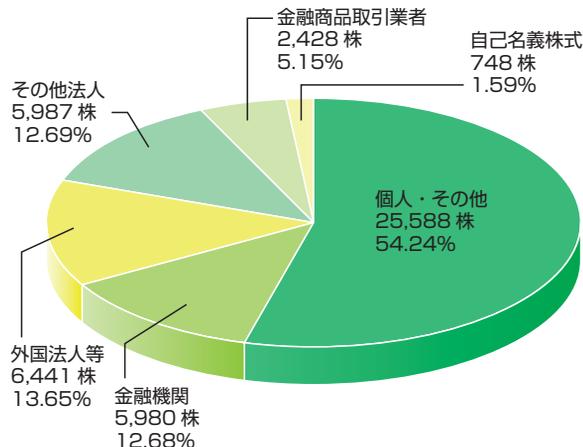
	通期予想	前年比増減
売上高	20,200	+2,373
営業利益	2,600	+326
経常利益	2,600	+407
純利益	1,600	+103

2011年3月期の液晶関連設備投資動向については、各液晶パネルメーカーの業績回復に伴い、積極的な投資が見込まれております。特に、中国市場の著しい拡大に伴い、検査関連装置・露光装置とともに中国向け案件等の受注が拡大すると予想されます。

Stock Information

●株式の状況 (2010年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数 175,903株
- 発行済株式総数 47,172株
- 株主数 6,520名
- 株式所有者別分布



●大株主 (上位10名)

杉本重人	5,663株	12.19%
新菱冷熱工業株式会社	4,901株	10.55%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,471株	5.32%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,295株	2.78%
資産管理サービス信託銀行株式会社	875株	1.88%
ブイ・テクノロジー社員持株会	782株	1.68%
自己名義株式	748株	1.59%
バンクオブニューヨーク・ジーシーエムクライアントアカウント ジェイビーアルディアイエスジーイーイー	698株	1.50%
日本証券金融株式会社	660株	1.42%
クレディスイスセキュリティーズヨーロッパリミテッド ピービーセクイントノントリーティークライアント	580株	1.24%

Company Profile

●会社の概要 (2010年6月25日現在)

社名：株式会社ブイ・テクノロジー
 代表取締役：杉本 重人
 設立：1997年10月16日
 本社所在地：横浜市保土ヶ谷区神戸町134
 YBPイーストタワー9F
 TEL：045-338-1980
 FAX：045-338-1781

役員

代表取締役社長 杉本 重人
 専務取締役 梶山 康一
 常務取締役 藤井 邦夫
 取締役 和田 正
 取締役 勝原 隆
 常勤監査役 大堀 吉栄
 監査役 中西 一之
 監査役 吾田 啓一郎

海外拠点

韓国 V Technology Korea Co., Ltd.
 台湾 V-TEC Co., Ltd.
 中国 V Technology Co., Ltd.上海駐在事務所

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
- 配当金受領株主確定日
 - ・期末配当金 3月31日
 - ・中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
 - ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL：0120-232-711 (通話料無料)
 - ・同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 公告の方法 日本経済新聞に記載する。

(ご注意)

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。